



日本消化器癌発生学会

NewsLetter

<http://www.j-sgc.org/>

2010 No.1

第21回日本消化器癌発生学会総会準備報告

このたび、第21回 日本消化器癌発生学会総会を平成22年11月18日(木)、19日(金)の両日、軽井沢プリンスホテルにて開催させていただき運びとなり関係者一同鋭意準備に努めています。

周知の如く、現在のわが国の死亡原因の第一位は悪性腫瘍であり、その大半が消化器のがんであります。本邦におけるがんの診断、治療の水準は高くまた年々進歩し、より早期の段階でがんが発見される機会も増加し、かなりの患者さんが癌から治癒するようになって参りました。しかし一方で癌の制御がかなわず、前述した如く結局は多くの方ががんで命を落とされることが現実であります。そのような観点からがんの制圧を目的とするには、がんの発生そして進展のメカニズムを解明し、その予防、診断をして治療へと展開することが必須の命題であります。

日本消化器癌発生学会は、そのような主旨のもと1989年(平成元年)に日本消化器癌発生研究会として設立され、食道・胃・大腸・肝臓・胆道・膵臓という消化器のがん全般を臓器を超えて一同に会し研究し、その研究方法も様々の基礎医学と臨床医学を統合した形で消化器癌の発生と進展の探究に力が注がれて参りました。1997年には現在ある学会としての組織に改組され今日に至っております。

本学会はそのような経過から「日本消化器癌発生研究会の業績を継承し、消化器癌の発生および進展に関する研究を行い、消化器癌の診断、治療および予防の向上、発展を図り、人類の福祉に寄与することを目的としています。」と謳われております。

この度、設立20年が経過した本学会をお世話させていただきに当たり、今日までの本学会が果たした輝かしい業績と多くの方々のご尽力に思いを馳せつつ、今後の更なる一歩として、幾多の研究の方法論と視点、更には概念を緊密に融合し、知の結集を計る機会に致したいと考えております。

そのような観点から今回の学会のテーマを『消化器癌発生学・知の結集』とさせていただきます。会期中には米国よりお招きしたDr. Curtis C. Harris(米国立がん研究所)に講演していただく予定です。また、教育講演は国立がんセンター生物学部部長の横田淳先生、群馬大学生体調節研究所所長の小島至先生にお話していただきます。更に特別企画として医学とは異なる分野から日本講談協

会会長の講談師 神田紅先生をお招きして、楽しいお話を聞けることと思います。その他にシンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、一般演題を予定しており、これらの講演、演題から多くの知の創出と、その融合により消化器癌の発生・進展における新たな一歩が踏み出せることを念じております。

避暑地として名高い軽井沢にはいくつもの“顔”があります。老舗やレトロな建物が残る新・旧軽井沢エリア、買い物や食事、レジャーを楽しむ南軽井沢エリア、美術館やスポーツ施設の集まる塩沢エリア、自然と温泉の中軽井沢エリアなどがあり学術的なこと以外でもお楽しみいただけることと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



第21回日本消化器癌発生学会
会長 桑野 博行 先生
(群馬大学大学院病態総合外科学)

目次

第21回日本消化器癌発生学会総会準備報告	1
第20回日本消化器癌発生学会総会報告	2
平成21年度第2回日本消化器癌発生学会理事会 議事録	3
平成21年度第3回日本消化器癌発生学会理事会 議事録	5
新評議員募集要項	6
6th International Society of Gastroenterological Carcinogenesis (ISGC) 参加登録・演題登録のお知らせ	6
役員・評議員名簿	7
編集後記	8

第20回 日本消化器癌発生学会総会報告

第20回日本消化器癌発生学会総会を2009年11月26日(木)～27日(金)の2日間、オリエンタルホテル広島を会場に開催させていただきました。総演題数は129題、全国および韓国から200名を超える参加者がありました。

本学会の基礎は1989年に設立された日本消化器癌発生研究会であり、当初より、臓器の枠にとらわれず、同じ消化器に発生する癌として位置づけ、基礎と臨床が融合して、類似点、相違点を比較検討することが特徴です。学会の様々な活動を通して、消化器癌の発生・進展のメカニズムの解明とともに、新しい診断・治療の展開に大きく貢献してきました。私自身、留学から帰局して間もなくに創設され、ほぼ欠かさず参加し、本学会に育てていただいたようなものですから、その記念すべき第20回学術集会をお世話させていただくことは大変光栄なことでした。

よく晴れた清々しい晩秋の朝、菊池 章先生(大阪大学)のレクチャーで幕を開け、シンポジウム「消化器癌研究の新展開」「消化器癌診断の新展開」「消化器癌治療の新展開」、ミニシンポジウム「癌幹細胞」「エピジェネティクス」「間質・血管新生」「浸潤・転移」、ワークショップ「食道癌」「胃癌」「大腸癌」「肝胆膵癌」などが行なわれました。レクチャーでは、岡田保典先生(慶應義塾大学)から組織内微小環境因子代謝酵素ADAMの癌における役割について、樋野興夫先生(順天堂大学)から癌の発生・進展とその制御について発癌の連盟的首位性の観点から、お話をいただきました。今回のメインは、第20回記念特別企画「消化器癌の発生・進展とその制御-過去から未来を考える-」でした。研究会の創設に中心的な役割を果たされた大原 毅先生(名誉理事長)、杉町圭蔵先生(名誉理事長)、田原榮一先生(名誉会員)から、これまでの歴史、Field carcinogenesis、マイクロRNAなどのお話を通して今後への提言をいただきました。さらに、今後を担う森正樹先生(大阪大学)、横崎 宏先生(神戸大学)、牛島俊



第20回記念特別企画での大原 毅 名誉理事長のご講演

和先生(国立がんセンター)からは、それぞれ、分子疫学とがん幹細胞、癌・間質相互作用、DNAメチル化の観点から、これからの消化器癌の基礎と臨床の展望を述べていただきました。また、本学会では初めての試みとして、日韓シンポジウムを行ないました。「Future perspective of gastrointestinal cancer treatment - from bench to bedside-」をタイトルとし、吉田和弘先生(岐阜大学)の司会のもと、Han-Kwang Yang先生(ソウル大学)、Woo Ho Kim先生(ソウル大学)をはじめ日韓の5名の先生方から、新しい切り口での消化器癌治療の将来展開につながる講演をいただきました。本学会のInternational versionとしては、International Society of Gastroenterological Carcinogenesisがありますが、アジア地域における消化器癌研究の連携を深めることは、日本消化器癌発生学会の使命でもあると考えています。

学会1日目の夕刻には、同ホテル内で全員懇親会を行い、瀬戸内の味覚をさかんに、消化器癌の発生・進展に関するフランクな情報交換ができました。同所で学会賞の授賞式が行なわれ、最優秀賞は島崎猛夫先生(金沢医科大学)が、奨励賞は阿南勝宏先生(広島大学)と坂本直也先生(広島大学)が受賞されました。

本学会にあたっては、教室員一同で準備、運営に取り組みましたが、何かと至らなかった点もあったかと存じます。ご容赦いただければ幸いです。本学会の成果が今後の消化器癌制圧の大きな力になるものと期待しております。

第20回 日本消化器癌発生学会総会
会長 安井 弥



運営にあたったスタッフとの記念写真

平成21年度第2回日本消化器癌発生学会理事会議事録

日 時：平成21年11月25日（水）15：30～17：00

場 所：オリエンタルホテル広島 椿の間（2F）

出席者：愛甲 孝、井藤久雄、伊東文生、今井浩三
上西紀夫、江角浩安、小西文雄、桑野博行
前原喜彦、宮崎耕治、安井 弥（敬称略）

事務局幹事：清水伸幸、野村幸世

オブザーバー：調 憲

事務局（クバプロ）：松田國博、齋藤英司

委任状：岡 正朗、菅野健太郎、平川弘聖、平田公一
森 正樹、小俣政男、門田守人（敬称略）

上西理事長が議長となり議事が進められた。

1) 理事長挨拶

上西理事長から挨拶があった。

学会発展に貢献された久保田哲朗理事の逝去に対し、
黙祷が捧げられた。

2) 議事録署名人指名

上西理事長より、伊東文生理事、桑野博行理事が指名
され、了承を得た。

3) 議事録承認

平成21年度第1回理事会（7月17日大阪で開催）の議
事録が承認された。

4) 庶務報告

清水事務局幹事より、会員の動向が次のとおり報告さ
れた。

2009年8月から2009年11月までに新入会44名、退会
48名の増減があり、2009年11月16日現在の会員数は
790名である。

5) 会則委員会報告

- ・理事会の議決要件について会則第18条に以下の条文を
追加することが上西理事長より報告された。

「3. 理事会の成立には、委任状を含めて理事の過半
数の出席を要し、議事の決定は出席者の過半数をもっ
て決し、可否同数の時は議長の決するところによる。」

- ・役員選考委員会で提案された、細則の理事・評議員の
選出条件に関する条項（細則1号第5節及び第6節）に
ついて上西理事長より報告があり、承認された。
- ・役員選考委員会で提案された、事務局および事務局幹
事に関する条項（細則1号第8節）について上西理事長
より報告があり、承認された。

6) 役員選考委員会報告

①役員について

- ・愛甲孝監事が定年にともない名誉会員に、田中紀章評
議員が定年にともない特別会員に推挙されたことが前
原理事より報告され、承認された。
- ・次期理事長に前原喜彦理事の就任が承認された。
- ・次期会長に桑野博行理事が決定している旨、前原理事

より報告された。

- ・前回理事会で、次次期会長に宮崎耕治理事が推薦され
たことが前原理事より報告された。
- ・新たな監事として立松正衛理事が推薦されたことが前
原理事より報告され、評議員会および総会で承認を得
ることとなった。
- ・事務局幹事として調憲氏が指名されたことが前原理事
より報告された。

②理事選考について

- ・平成21年度第1回理事会で、新理事に牛島俊和評議員、
吉田和弘評議員が推薦されたことが報告された。また、
新たに島田光生評議員、豊田実評議員が理事として推
薦された。

③評議員選考について

- ・新評議員として、片岡洋望氏、川上和之氏、調憲氏、
田中信治氏、八代正和氏、山口佳之氏の6名を推薦さ
れたことが前原理事より報告され、承認を得ることと
なった。

7) 編集委員会報告

安井理事より以下の報告があった。

- ・日本消化器癌発生学会の会員であることを明記して投
稿すると査読システムで特典があるが、それを明記し
ない投稿が多くあるので、会員に投稿の際に注意する
ように呼び掛けを行うこと、Web投稿の際に簡単に会
員か否かを申告できるシステムを整えるようカルガー社
に要求することが確認された。
- ・Oncologyのインパクトファクターが低下していること
について、カルガー社に説明を求めることが確認された。
- ・日本消化器癌発生学会の会員名簿を定期的にカルガー
社に送付することが確認された。

8) 国際委員会報告

安井理事より以下の報告があった。

①国際消化器癌会議について次のように報告された。

- ・第6回会議は、2010年9月9日～12日に、Raymond
N. DuBois (MDAnderson Cancer Center Vice
President) がチェアマンとなってアメリカのHouston
で開催する予定である。
- ・第5回会議は、2008年8月31日から9月3日まで、
英国のOxfordにて開催されたが、第19回日本消化器
癌発生学会総会と開催時期が非常に近いこともあり、
日本からの参加は10名程度にとどまったことが報告さ
れた。
- ・日本消化器癌発生学会として、国際学会への参加を積
極的に会員に呼び掛けていく必要があることが確認さ
れた。

②国際消化器癌学会 (ISGC) の運営について次のよう に報告された。

- ・本学会の評議員は、自動的にISGCの会員に登録され

ることとなっているが、今後のさらなる会員増に向けて、会員登録情報の整理を行うことや、2010年度から評議員より1,000円を国際学会登録料として徴収することが確認された。また、国際消化器発癌学会には参加費の減免を行うよう申し入れをすることが確認された。

- ・国際学会のオフィシャルジャーナルについては今後の検討課題とすることが確認された。

9) G-Project委員会報告

安井理事より以下の報告があった。

①進捗状況が次のとおり報告された。

- ・昨年度の総会時G-Project委員会以降、広島大学分子病理学教室において胃癌160症例、大腸癌140症例のp53, VEGF-A, VEGF-Cの免疫染色を行った。その解析の結果、胃癌、大腸癌において、p53, VEGF-A, VEGF-Cの3因子いずれに関しても、再発・無再発と染色陽性率(10%以上の腫瘍細胞が染色された症例を陽性と判定)との有意な相関は認められず、本projectにおいて当初G因子候補としていた、p53, VEGF-A, VEGF-C生存率が概ね20~30%の差が認められるといったこれまでの報告に基づくエビデンスの検証結果は得られなかった。
- ・広島大学において当初のp53, VEGF-A, VEGF-Cの3項目以外に、RegIV, GW112, claudin18, MMP-7の4項目に関しての染色を行ったが、これらの中では胃癌症例でMMP-7のみにおいて、陽性で再発例が有意に多い結果であった。しかし、MMP-7はこれまでの論文報告に基づいたエビデンスの結果から候補因子として抽出したものではなく、本因子をTNM-G分類のG因子候補とするかに関しては検討が必要と考えられる。

②今後の研究実施計画について次のとおり報告され、承認された。

- ・目標症例数は、胃癌、大腸癌各200例であることから、当初の目標数まで解析を進める予定であること。
- ・MMP-7を含めた候補因子から新しい追加因子を選定し、解析を進めること。

③その他

- ・本プロジェクトにかかる標本作製費、郵送費は、随時学会事務局へ請求していくことが確認された。

10) 倫理問題検討委員会報告

上西理事長より、今年度については委員会の開催がなかった旨が報告されたが、今後COI (Conflict of Interest: 利益相反) について検討が必要ではないかとの提案があった。

11) 在り方委員会報告

上西理事長より、委員会は翌日開催される予定であることが報告された。また、今後学会の法人化についての検討が必要かどうか提案があった。

12) 財務委員会報告

- ・平成20年度の決算について、小西委員長より資料をもとに次のような報告があった。

① 19年度以前の会費の納入が多くあり、会費収入が増えていること。

② 「広告収入」について、ニューズレター広告の収入が減少したものの、バナー広告がそれを上回ったこと。

③ G-project関係の支出が予算を大きく下回り、支出全体の縮減につながったこと。

④ それらの結果、繰越金の大幅な増加があったこと。

以上について審議し、承認された。

- ・平成21年度の予算案が、「広告収入」についてニューズレターの広告収入は減少するもののバナー広告収入が20年度以上に見込めるとの説明とともに、小西委員長より資料をもとに提出され、承認された。

13) 第19回学会総会(2008年)報告

第19回日本消化器癌発生学会総会は、平成20年8月28日から29日にかけて大分県別府市、亀の井ホテルにおいて開催され、盛況であった旨、上西理事長より報告された。

14) 第20回学会総会(2009年)報告

第20回日本消化器癌発生学会総会は、平成21年11月26日から27日にかけて広島市、オリエンタルホテル広島で開催される予定であることが、安井理事より報告された。

15) 第20回学会総会(2010年)準備報告

第21回日本消化器癌発生学会総会は、平成22年11月18日から19日に長野県北軽井沢郡、軽井沢プリンスホテルで開催される予定であることが桑野理事より報告された。

16) 第22回学会総会(2011年)について

第22回日本消化器癌発生学会総会会長に宮崎耕治理事が推薦されたことが報告され、平成23年に佐賀大学の担当で開催されることが承認された。

以上

平成21年度第3回日本消化器癌発生学会理事会議事録

日 時：平成21年11月27日（金）14：15～14：45

開催場所：オリエンタルホテル広島 椿の間（2F）

出席者：井藤久雄、伊東文生、今井浩三、桑野博行
前原喜彦、安井 弥（敬称略）

事務局幹事：清水伸幸、調 憲

事務局（クバプロ）：齋藤英司

委任状：岡 正朗、江角浩安、上西紀夫、小西文雄
菅野健太郎、宮崎耕治、平川弘聖、平田公一
森 正樹、小俣政男、立松正衛、門田守人
（敬称略）

前原理事長が議長となり議事が進められた。

1. 新理事長挨拶

前原理事長より挨拶があった。

2. 新年度役員について

- ・ 評議員の選考要件が緩和されたことを受け、新たな評議員を積極的に募ることが確認された。
- ・ 新たな理事として夏越祥次評議員が推薦され、次回評議員会、総会で承認を得ることとなった。
- ・ 数年内に多数の理事の定年が予定されていることから、若い世代から積極的に理事を募ることが確認され、またその際、運用上理事定員を若干上回ることも許容されるのではないかと提案があり、承認された。

- ・ 各委員会の委員の選定については、前原理事長に一任することが確認された。
- ・ 今後の検討課題とされたCOI（Conflict of Interest：利益相反）については、別途新たな委員会を設置するのではなく、倫理問題検討委員会で検討することが承認された。

3. その他

- ・ Oncologyのインパクトファクター低下を受け、オフィシャルジャーナルとし続けることの是非を問う意見があり、今後検討することが確認された。
- ・ 学会賞については、応募による審査方式を改め登録演題すべてを審査対象とし、また受賞者数も拡大する方向で検討することが確認された。
- ・ 会費未納者リストを各評議員に送付し、会費納入を働きかけていただくようお願いすることが確認された。
- ・ バナー広告獲得のため、各理事から企業への働き掛けをお願いすることが確認された。
- ・ 次回理事会までに次次期会長について検討していくことが確認された。
- ・ 平成22年4月8～10日に名古屋で日本外科学会が開催されるのに合わせて次回理事会を開催することが確認された。

以上

新評議員募集要項

日本消化器癌発生学会では、新評議員を募集しております。新評議員立候補を希望なさる先生は、学会ホームページ (http://www.j-sgc.org/annai/hyogi_bosyu.html) より評議員申請書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、学会事務局までご送付ください。

<送付先>

日本消化器癌発生学会 事務局住所

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F

株式会社クバプロ内

TEL : 03-3238-1689 FAX : 03-3238-1837

<参 考>

日本消化器癌発生学会会則 (抜粋)

第4章 役員等および職員

第11条 役員

本会には次の役員をおく。

(3) 評議員 正会員の10%以上20%以内

第12条 役員の選出

1. 理事長、理事、評議員および監事は別に定めるところにより選出される。

日本消化器癌発生学会会則施行細則第1号 (抜粋)

第6節 評議員についての細則

1. 評議員は、次項に定める有資格者の中から理事会の推薦により、評議員会および総会の承認を得て決定される。

2. 評議員となり得るものは、次のすべての資格を有するものとする。

(1) 満65歳未満の正会員

(2) 評議員になる時点で連続3年以上の会員歴を有し、会費を完納しているもの。

(3) 評議員2名の推薦を得たもの。

3. 評議員の任期は2年とし、再任をさまたげない。

4. 評議員は、理由なく連続して2回評議員会を欠席した場合その資格を失う。

5. 評議員の定年を満65歳とする。ただし任期は定年に達した年の会計年度末までとする。

6. 評議員になることを希望するものは、所定の書類と推薦状を理事会に提出しなければならない。

6th International Society of Gastroenterological Carcinogenesis (ISGC) 参加登録・演題登録のお知らせ

Call for Posters

Abstracts may be submitted for the Poster Session, but must be received no later than November 19, 2010. Limit poster abstracts to one page, typed single-spaced on plain 8.5 x 11 inch paper. Organize the abstract into Purpose, Methods, Results, and Conclusions. Define all abbreviations, and provide three to five keywords describing the nature and content of the abstract. Please include the name of the conference, title of your presentation, author's full name, highest degree, and institutional affiliation, telephone, fax, and e-mail address of the contact author. The conference executive committee will select abstracts for poster presentation on the basis of their scientific merit and content quality. The content of the abstracts will not be edited; however, the formatting will be altered to replicate that of the conference syllabus where it will be published. Free-standing, 4 foot by 8 foot corkboards will be provided for displaying the poster. Abstracts should be e-mailed to Rosanne Lemon Evans at rlemon@mdanderson.org by November 19, 2010.

Registration Information

On-site registration will be open from 6:00-8:00 pm on Thursday, January 6, 2011 in conjunction with the Welcome

Reception, and at 7:30 am. on Friday, January 7, 2011. The conference will begin at 8:20 am. on Friday, January 7 and adjourn at 4:00 pm on Saturday, January 8. Advance registration is encouraged as space and materials are limited. Please see registration form for applicable fees.

The deadline for advance registration is December 17, 2010.

There are three ways to register:

- Mail to: CME/Conference Management-Unit 1381
The University of Texas MD Anderson Cancer Center
P.O. Box 301439, Houston, TX 77230-1439
- Fax to: 713-794-1724
- On-line at www.mdanderson.org/conferences

We accept the following forms of payment:

- Check (payable through U.S. banks only)
- Money Order
- Credit Cards (MasterCard, VISA, and American Express)
- Cash (on-site registration)

A receipt and confirmation letter will be sent to you within ten working days of receipt of your fee.

The full conference registration fee includes the tuition, breaks, lunches, and receptions.

役員名簿

2009年11月28日から

理事長 前原 喜彦

理事 (19名)

井藤 久雄	伊東 文生	今井 浩三
牛島 俊和	江角 浩安	岡 正朗
上西 紀夫	桑野 博行	小西 文雄
島田 光生	菅野健太郎	豊田 実
平川 弘聖	平田 公一	前原 喜彦
宮崎 耕治	森 正樹	安井 弥
吉田 和弘		

会長 桑野 博行

次期会長 宮崎 耕治

監事 (3名)

小俣 政男 立松 正衛

事務局幹事 (3名)

清水 伸幸 調 憲 野村 幸世



名誉会員・特別会員名簿

名誉会員 (16名)

大原 毅 (名誉理事長)		
杉町 圭蔵 (名誉理事長)		
愛甲 孝	青木 照明	内田 雄三
小川 道雄	金澤暁太郎	北島 政樹
佐治 重豊	杉村 隆	曾和 融生
田原 榮一	田尻 孝	寺野 彰
二川 俊二	三輪 晃一	
久保田哲朗	恩田 昌彦	下山 孝
長町 幸雄	長興 健夫	磨伊 正義

物故者

特別会員 (27名)

朝倉 均	磯野 可一	岩永 剛
岡島 邦雄	冲永 功太	笠原 正男
木村 健	小西 陽一	斉藤 利彦
砂川 正勝	炭山 嘉伸	曾我 淳
高橋 俊雄	竜田 正晴	田中 紀章
比企 能樹	平山 廉三	廣田 映五
藤田 力也	船曳 孝彦	三木 一正
武藤徹一郎	武藤 泰敏	棟方 昭博
安富 正幸	山川 達郎	渡辺 敦光
馬場 正三		

物故者

評議員名簿

2009年11月28日から

(115名)

浅尾 高行
油谷 浩幸
池口 正英
伊藤喜久治
井藤 久雄
伊東 文生
今井 浩三
牛島 俊和
内田 英二
宇都宮 徹
江上 寛
江角 浩安
太田 哲生
大平 雅一
岡 正朗
緒方 裕
小川 健治
落合 淳志
小俣 政男
掛地 吉弘
片岡 洋望
加藤 俊二
加藤 広行

兼松 隆之
上西 紀夫
川上 和之
川口 実
川又 均
北川 雄光
北台 靖彦
工藤 進英
國安 弘基
久保 正二
熊谷 一秀
倉本 秋
桑野 博行
高後 裕
後藤 満一
小西 文雄
今野 弘之
澤田 鉄二
塩崎 均
汐田 剛史
篠村 恭久
島田 信也
島田 光生
嶋田 裕

嶋本 文雄
清水 伸幸
下山 省二
城 卓志
調 憲
白水 和雄
菅井 有
菅野健太郎
瀬戸 泰之
高橋 豊
高森 啓史
田久保海誉
竹之下誠一
立松 正衛
田中 信治
田渕 崇文
塚本 徹哉
辻谷 俊一
藤 也 寸志
徳永 昭
富田 尚裕
豊田 実
内藤 善哉
永井 秀雄

仲田 文造
中森 正二
中山 淳
名川 弘一
夏越 祥次
檜原 啓之
西野 輔翼
西森 英史
西山 正彦
野口 剛
野村 幸世
秦 史壮
服部 隆則
馬場 秀夫
平川 弘聖
平田 公一
藤井 茂彦
藤村 隆
藤盛 孝博
別府 透
前原 喜彦
松川 正明
松倉 則夫
松原 長秀

真船 健一
源 利成
峯 徹哉
三森 功士
宮崎 耕治
宮地 和人
森 正樹
森田 勝
門田 守人
八代 正和
安井 弥
八十島孝博
山口 明夫
山口 佳之
山本 博幸
横崎 宏
吉田 和弘
吉松 和彦
渡邊 聡明
渡邊 雅之

(50音順)

編集後記

まずは私の自己紹介をさせていただきます。昨年から九州大学消化器・総合外科教授 前原喜彦が本学会の理事長を拝命したため、学会の幹事を仰せつかっております調 憲(シラベ ケン)と申します。現在、教室で前原先生のご指導のもと、肝臓・脾・門脈・肝臓移植外科の責任者として仕事をさせていただいております。学会幹事ということでニュースレターの編集後記を書くようにとのご指名ですので、編集後記を書かせていただきます。

さて、本学会の一番の思い出は1996年に田原榮一先生が広島で開催された第一回国際消化器発癌会議です。私も参加させていただき多数の参加者と活発な議論が行われていたことを記憶しています。私にとっては初めての国際学会での発表でたいへん緊張したことを今でも思いだします。また、昨年の広島における第20回の学会でも外科、内科、病理、生化学などの各分野からのレベルの高いディスカッションが行われていることに感動しました。消化器癌の発生と進展のメカニズムについて外科、内科、病理、生化学などの各分野にわたって広く横断的な研究を行うとした発足当時の精神は今に引き継がれていると感じました。名誉理事長の大原 毅先生が講演の中で紹介された高浜虚子の「去年今年(こそことし) 貫く棒の如きもの」という俳句が印象的でした。

今年日本消化器癌発生学会は第21回を迎えます。本年は群馬大学の桑野博行先生が軽井沢で主催されます。九州大学の杉町圭蔵食名教授とともに食道癌の field carcinogenesis を病理学の立場から提唱された、まさに本学会を主催されるにふさわしい先生でありますので、軽井沢の学会がたいへん楽しみです。

また、本年、理事長よりのアンケートで評議員の皆様にはご面倒をおかけしましたが、多数の評議員から回答をいただきました。厚く御礼申し上げます。このアンケートの結果の詳細は前原理事長が学術集会の理事長講演でお話しになります。そのなかで約半数に近い研究室で研究資金が苦しいということ、80%の施設で、若手研究者が減少しているという実態が明らかになりました。がんの基礎研究の場合からMDが減っているということでしょう。一過性の現象ならよいのですが、このままこの傾向が続けばわが国のがんの基礎研究は危機的な状況に陥るのではないかと心配しています。本学会が重ねてきた輝かしい業績に思いを馳せ、若手研究者にとっての有意義な学びの場でありつづけた以上、このことができるのか、今真剣に考える時かもしれません。

「もっとも強い者が生き残るのではなく、もっとも賢い者が生き残るのでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。」(チャールズ・ダーウィン) 変るべきもの、変るべきでないもの、そんなことを考えながら、編集後記をしたためた一日でした。会員の皆様におかれましては今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

発行 日本消化器癌発生学会事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15

UEDAビル6F 株式会社クワプロ内

TEL: 03-3238-1689 FAX: 03-3238-1837

発行者 日本消化器癌発生学会

編集 総務委員会

印刷 福々印刷株式会社



ティーエスワンの顆粒剤ができました!

フツ化ピリミジンの新分類

DIF

DPD Inhibitory Fluoropyrimidines

UFT, TS-1はDIFです。



代謝拮抗剤

ユ-エフティ[®] カプセル 100mg

ユ-エフティ[®] E 顆粒 20%

創薬、処方せん医薬品[®] 薬価基準収載 テガフル・ウラシル配合カプセル剤
テガフル(腸溶)・ウラシル配合顆粒剤

代謝拮抗剤

ティーエスワン[®] カプセル 20・25 新発売

ティーエスワン[®] 配合顆粒 T20・T25

創薬、処方せん医薬品[®] 薬価基準収載 テガフル・ギメラシル・
オテラシルカリウム配合カプセル剤・顆粒剤

※注意—医師等の処方せんにより使用すること
効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元
資料請求先
(医薬品情報室)



大鵬薬品工業株式会社

〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL: 0120-20-4527
http://www.taiho.co.jp/

2009年6月作成